

我が国における海外展の実施を巡る近年の社会的状況

・9.11テロ(米国同時多発テロ)以降の保険料の高騰

テロ事件前後での保険料率の比較: 1.5/1000 → 2.5/1000 (推計)

(参考) 評価額1,000億円の海外展の場合

- ・料率1.5/1000であれば、保険料1.5億円
- ・料率2.5/1000に上昇すれば、保険料2.5億円(1億円増)

・作品の評価額の高騰

・美術品は世界的に評価額が高どまり。

(例)「吉備大臣入唐絵巻」(ボストン美術館所蔵)は全4巻で9億ドルの評価額(平成12年)

・特に近年、欧米市場では美術品の価格が高騰。中国など新興国における目覚ましい経済発展が市場価格の底上げに影響。

・大規模地震の頻発

平成15年以降、ほぼ毎年、震度6以上の地震が発生(10件)

(参考) 震度6: 立っていることが困難。耐震性の低い建物では倒壊。
かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損・落下。

・国立美術館・博物館の独法化、公立美術館・博物館における指定管理者制度の導入

必要な予算・人員の確保が課題

・質のよい展覧会の開催が課題

展示点数の確保、開催回数の維持、質のよい展示が課題

※ 主催者における採算性重視の傾向、評価額高騰による展示会の中止又は展示内容の修正

・膨大な寄託品の保管

国立博物館の寄託品の数 12,045件(平成20年3月現在)